様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 １８ 日現在

機関番号：２４４０３
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５９３５０７

研究課題名（和文）特別養護老人ホームにおける看護師が実践する感染症リスクマネジメント指標の開発

研究課題名（英文）Infectious Disease Risk Management Indices for Nurses at Nursing Homes

研究代表者
松田　千登勢（Matsuda, Chitose）

大阪府立大学・看護学部・准教授

研究者番号：７０２８５３２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、特別養護老人ホームの看護師が実践する感染症リスクマネジメント指標の開発である。全国から抽出した1000施設に対して実施した調査の結果から、感染管理の実態を把握した。次に、特別養護老人ホームの看護師を対象にした個別面接調査の結果から、感染管理に対する看護職の役割と実践している内容を分類・整理し、それをもとに「看護師が実践する感染管理指標」を作成し、全国から抽出した1000施設を対象に調査した結果から、指標の修正を行った。

研究成果の概要（英文）：This study was carried out to develop infectious disease risk management indices for nurses at nursing homes. Utilizing the results of a survey conducted at 1,000 nursing homes throughout Japan, we identified the current state of infection control; and we used the results of individual interviews with nurses at nursing homes to classify the roles and responsibilities of nurses in infection control. We then established Infection Control Indices for Nurses based on the interview results and revised the indices in accordance with survey results conducted at the 1,000 facilities.

研究分野：老年看護

キーワード：特別養護老人ホーム　感染症マネジメント　看護師

１．研究開始当初の背景

「生活の場」といわれる特別養護老人ホーム（以下、特養）において感染症が発生した場合、集団で生活を送る環境から、治療を中心とする病院とは異なり感染症が伝播しやすい。入所者の 9 割が認知症を有するだけでなく、複数の慢性疾患を持ち、胃ろうによる経管栄養、膀胱留置カテーテル、喀痰吸引などの医療処理を必要とする人も多く)、感染症を引き起こすリスクも高くなると推測される。このような状況の中で、感染症のリスクを全て予防することは不可能であり、リスクを最小限に抑えることが重要となる。2006 年の介護報酬等の改定により、今まで努力目標であった感染症への対応方策を基準上明確化され、医療専門職である看護師が中心となって、感染症対策を施設全体で、組織的かつ継続的に行っていく役割を発揮することが求められる。しかし、感染管理に対して施設の状況によって施設間格差も大きいことが明らかになっているため)、特養の感染管理の標準化を図る必要があると考える。

２．研究の目的

本研究の目的は特養の看護師の感染管理の実践的知識を、感染予防、感染症発生時のケア、感染対策への教育に分け、質的・帰納的に分析したのち体系化し、それをもとに施設でシステム的に感染管理できるよう看護師が実践する感染症リスクマネジメント指標を開発することである。

３．研究の方法

１）全国の特養における感染管理の実態調査

全国の特養の感染管理の責任を担う看護職 1,000 名を対象に、文献検討から独自に作成した郵送式自記式質問調査票を行った。調査内容は、回答者の属性として、性別、年代、施設での職務経験、感染管理の経験年数など、施設の概要は、運営主体、医師の勤務形態、感染症発生件数など、感染対策委員会の組織、感染管理の活動、 感染対策の職員研修などであった。分析方法は、SPSS19.0J を使用し、単純集計を行った。質問紙の自由記述の結果は、類似する内容ごとにまとめ整理した。

２）看護職が実践する感染管理内容に関する面接調査

感染管理を積極的に推進している特養で感染管理のリーダー的地位にあたる看護職９名を対象に、半構造化面接を実施した。調査内容は、施設の概要として、入居者数、過去 5 年間の施設内での感染症発生件数の概数、医療機関との連携状況など、研究協力者の属性として性別、年代、資格、経験年数である。感染対策委員会における看護職の役割とその中で実践している感染予防、感染症発生時の対応、感染管理に対する教育について具体的に語ってもらった。分析方法は面接調査の内容から、感染管理の看護職の役割と実践している内容を抽出し、比較検討しながら分類・整理を行った。

３）「看護師が実践する感染管理指標」の評価

第 2 段階で得た結果をもとに「看護師が実践する感染管理指標」作成し、全国の特養 1000 か所の感染管理の責任を担う看護職を対象に、各項目の評価を問う郵送による自記式質問紙調査を実施した。質問内容は研究協力者の背景として、年代、性別、保有資格、専門職経験年数、特養経験年数と特養の看護職が実践する感染管理指標原案の項目の内容妥当性を問うものであった。分析は各項目の内容妥当性指数を計算し、自由記述欄の質的データについては意味内容の類似性に沿って分類した。内容妥当性指数 0.8 以上を妥当性ありとし、0.8 未満の項目については削除または質的データを参考に修正した。

4）倫理的配慮

1）～3）の各研究を実施する際、所属大学看護学部研究倫理委員会の承認を得て実施した。

４．研究成果

１）全国の特養における感染管理の実態調査

252件の有効回答を得た。その結果、ほとんどの施設が感染対策委員会を独立または他の委員会と一体的に設置しており、そのメンバーとして看護職、介護職はほぼ全施設、事務職員は半数で、医師は3割に満たしていなかった。委員会の責任者として、6割の施設で看護職が担っていた。また、委員会の開催は１か月から３か月に１回実施されていたが、感染対策のための定期的なラウンドはあまりされておらず、感染症発生の経験のある施設の方が行っていることが明らかとなった。施設内感染対策の立案や感染対策マニュアルの作成・改訂について、7割が感染対策委員会によって実施されており、入居者や職員の健康状態把握、新入居者の感染症の既往把握については、感染対策委員会よりも看護職のみが担っている施設の方が多かった。感染管理の課題として、感染対策委員会は設置されているが、十分に機能していないことや感染者の隔離が十分できる個室がないこと、経済的な問題などのハード面と、職員への感染対策の周知徹底がなされていないこと、認知症高齢者への対応などのソフト面が明らかとなった[7)]。

２）看護職が実践する感染管理内容に関する面接調査

対象者全員が女性で、30・50・60 代が各 2 名、40 代が 1 名、施設での平均経験年数は 13.3 年であった。看護師の役割として≪他の職種と連携をとりながらイニシアティブをとる≫と≪介護士が中心となって対応できるように調整する≫の 2 つがみられた。感染予防として、普段から居住空間やトイレなどの清掃や加湿器の設置など＜感染を起こさない環境を整える＞、厚生労働省や保健所からの情報を得たうえで予防対策を行う＜感染症の情報収集をし、予防対策を行う＞や外部者や職員の手洗い・うがい、マスク着用の励行等の＜一般的な対応の強化をする＞、外部者の面会の制限等の＜感染源を入れないよう外部からの制限を徹底する＞があった。感染症発生時の対応には、医師などと相談をしながら対応を考える＜他の職種と協議し、対応を考える＞、職員の対応を統一するために＜職員に対応をわかりやすく伝達する＞、感染者の隔離や職員の行動範囲を制限するなどの＜感染を拡大しないよう対応する＞などがあった。感染管理の教育では、職員の感染管理に対する意識や対応を継続することに重点を置き、＜看護師が中心となって感染管理研修会を行う＞ことと介護職員を中心に研修会や職員同士でチェックしあう＜職員同士で感染管理について学習できるよう協力する＞、＜その都度、職員に感染管理を伝えていく＞などがあった。感染管理に対して、[感染管理は予防が大事]と[予防しても限界があり、感染を拡大しないように対応する]という理念により、強化する実践内容に違いがみられた。

３）「看護師が実践する感染管理指標」の評価

284 件の有効回答を得た。ほとんどの項目で妥当性を認められた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1 件）

①<u>山地佳代</u>、<u>松田千登勢</u>、<u>佐藤淑子</u>、<u>江口恭子</u>、<u>長畑多代</u>、多床室を有する特別養護老人ホームにおける感染管理活動、老年社会科学、第 36 巻 3 号、322～329　査読有、2014

〔学会発表〕（計 5 件）

①<u>松田千登勢</u>、<u>山地佳代</u>、<u>佐藤淑子</u>、<u>江口恭子</u>、<u>長畑多代</u>、特別養護老人ホームにおけ

る看護職が実践する感染管理、第 34 回日本看護科学学会学術集会、2014 年 11 月 30 日、名古屋国際会議場（愛知県、名古屋市）

②松田千登勢、山地佳代、佐藤淑子、江口恭子、長畑多代、特別養護老人ホームにおける感染管理の課題、第 33 回日本看護科学学会学術集会、2013 年 12 月 7 日、大阪国際会議場、(大阪府、大阪市)

③山地佳代、松田千登勢、佐藤淑子、江口恭子、長畑多代、特別養護老人ホームの感染管理活動とその関連要因、第 33 回日本看護科学学会学術集会　2013 年 12 月 7 日、大阪国際会議場、(大阪府、大阪市)

④山地佳代、松田千登勢、佐藤淑子、江口恭子、長畑多代：特別養護老人ホームにおける感染管理の実態（第 1 報）―感染管理委員会の活動に焦点を当て―、第 18 回日本老年看護学会、2013 年 6 月 5 日、大阪国際会議場、(大阪府、大阪市)

⑤松田千登勢、山地佳代、佐藤淑子、江口恭子、長畑多代、特別養護老人ホームにおける感染管理の実態（第 2 報）―感染管理活動に焦点を当てて―、第 18 回日本老年看護学会、大阪国際会議場、(大阪府、大阪市)

６．研究組織

(1)研究代表者

松田　千登勢（MATSUDA　CHITOSE）
大阪府立大学　看護学部・准教授
研究者番号：70285238

(2)研究分担者

山地　佳代（YAMAJI　KSYO）
大阪府立大学　看護学部・助教
研究者番号： 80285345
佐藤　淑子（SATO　YOSHIKO）
大阪府立大学　看護学部・准教授
研究者番号：40249090
江口　恭子（EGUCHI　KYOKO）
大阪府立大学　看護学部・助教
研究者番号：10582299
長畑　多代（NAGAHATA　TAYO）
大阪府立大学　看護学部・教授
研究者番号：60285327